

6880

106

牛島

四月

明

陸海軍部第一六九號

憲高普第一一〇號

佳木斯屯墾隊ノ近況ニ關スル件報告(通牒)  
昭和八年四月十一日 憲兵司令官 秦真次

陸軍大臣 荒木貞夫 殿

首題ノ件左記報告(通牒)ス

要 設立ス

旨

- 1. 一月十二日隊内ニ第一彌榮村在郷軍人分會ヲ
- 2. 一月十八日待遇改善方具申ス
- 3. 二月十二日懲罰令ヲ制定ス
- 4. 三月十日隊員ノ大部ハ永豊鎮ニ移住農耕中
- 5. 二月中旬以降匪賊計伐中戦死者四名ヲ出ス
- 6. 隊規ヲ紊リ除名處分ニ附セラレ内地ニ歸還セ  
ルモノ十七名ニ達ス

一 在郷軍人分會設立

屯墾隊ニ於テハ聖旨ヲ奉體シ軍人精神ヲ鍛  
練シ軍事能力ノ増進ヲ圖ル目的ヲ以テ同隊  
内ニ在郷軍人會第一彌榮林分會ヲ設立スヘ  
ク本部宛之カ承認方申請中ノ處一月十二日  
認可ノ指令到達シタルヲ以テ直ニ設立セリ  
尚分會設立ニ當リ屯墾隊最高幹部ハ内地出  
發ニ當リ高松宮殿下ヨリ御下賜セラレタ  
ル金參百圓ヲ同會基金トシテ寄附セリ  
主ナル役員左ノ如シ

第一彌榮林在郷軍人分會長

同

市川中佐  
副分會長  
熊谷大尉

班別

本分會ハ意思ノ疎通團結事業實施上ノ便ヲ  
圖ル爲メ左ノ班ニ區分ス

第一班青森 第五班山形 第九班北大營

第二班秋田 第六班福島 第十班群馬

第三班岩手 第七班新潟 第十一班栃木

第四班宮城 第八班長野 第十二班茨城

二 待遇改善方具申

隊長以下幹部間ニ於テ協議ノ結果一月十八日

(1) 永豊鎮ニ憲兵又ハ警察官派遣

(2) 食費補助増額

(3) 被服補給

(4) 手當支給

(5) 當分ノ間戦死公傷者ニ出征軍人同様ノ恩

## 典附與

等ヲ具申セリ

## 三、懲罰令制定

隊規ノ保持ト隊員ノ犯行ヲ未然ニ防止スル  
 夕メ屯墾隊懲罰令(罰目、除名、除名執行猶  
 豫、誓約、謹慎、譴責)ヲ制定シ二月十二日  
 ヲリ施行セリ

## 四、永豊鎮移住

二月十一日紀元節ノ佳節ニ際シ屯墾隊建築  
 班ヲ主トスル約百名ノ先發隊ハ第四中隊長  
 熊谷大尉指揮ノ下ニ永豊鎮ニ向ケ出發直ニ  
 設營準備ニ着手セルカ本隊ハ其一部ヲ佳木  
 斯ニ殘置シ三月十日ノ陸軍紀念日ヲトシ行  
 軍ヲ以テ目的的地ニ到着先發隊員ト合シ農耕

五 匪賊 作業 = 從事セリ

二 月中旬 以降ノ 戦死者左ノ 通り

本籍 福島縣 信夫郡 杉妻村 大字 伏拜

字 稻脇 一六

豫備役 陸軍 歩兵 一等兵 渡邊 熊 名

右ハ 氏壑 隊先發 隊員トシテ 二月十一日 佳木

斯 出發 同十三日 永豊 鎮ニ到着 後 匪賊 討伐 決

死 隊ニ加ハリ 討伐 軍指揮官 東宮 大尉 指揮 下

ニ 出勤 中 前額部ニ貫通 銃創ヲ負ヒ 即死セリ

本籍 岩手縣 東盤井郡 興田 林 字 沖田

心臓部 貫通 銃創

豫備役 陸軍 騎兵 上等兵 佐藤 宋 助

本籍 岩手縣 騰次郡 直城 村 大字 中野

字島田

腹部貫通銃創

豫備役陸軍歩兵一等兵 菅原國吉

本籍 岩手縣西盤井郡永井村

頭部貫通銃創

補歩 加瀬谷功

右ハ永豊鎮東北方約一里ノ地點ニ騎馬賊約

三百名襲來掠奪中ノ旨土民ノ報告ニ依リ三

月二十日熊谷大尉ノ指揮下ニ出勤討伐中各

頭書ノ銃創ヲ負ヒ即死セリ

右戦死者ニ對シテハ直子ニ其狀況ヲ拓務省

軍部ニ報告シ戦死者ノ待遇方ニ関シ上申セ

リ

六 除名處分者ノ狀況

客年十月赴滿以後隊員中環境ト衣食住ノ不

自由ニ堪兼ネ往々飲酒女食ニ耽ルモノアリ  
 テ警戒勤勞乃至外出先ニ於テ土民ノ金品家  
 畜ヲ強奪シ或ハ無錢飲食シ或ハ隊規ヲ紊リ  
 團結ヲ破壊スル等ノ行為者ニ對シテハ幹部  
 ノ協議ニ基キ除名處分ニ附シ内地ニ歸還セ  
 シメツツアルカ一月末日迄ニ之等處分ヲ附  
 ケタルモノ十七名ニ達セリ

## 發送先

陸軍大臣、陸軍次官、軍務局長、人事局長

兵務課長、徵募課長、恩賞課長、調査班長

參謀次長

帝國在郷軍人會長